

牛の舌扁桃分布状況調査

千葉県東総食肉衛生検査所
丸 ひろみ 片山 雅一

牛の舌扁桃は特定危険部位（SRM）に指定されており，と畜場での除去が義務付けられている。しかし舌扁桃に関して詳細に記載した成書等は見当たらない。そこで今回我々は舌扁桃を適切に除去する目的で，舌扁桃の位置，分布等について検討した。

材料および方法

- 1) 材料：舌（口蓋扁桃除去後の舌根から舌尖）
- 2) 供試牛：乳用肥育牛 5 頭（22 ヲ月齡 2 頭，24 ヲ月齡 2 頭，25 ヲ月齡 1 頭）
乳用廃用牛 5 頭（49，75，79，93，120 ヲ月齡 各 1 頭）
- 3) 計測：舌尖～最後位有郭乳頭の長径，最大幅，最大高，重量を計測した。
- 4) 病理組織学的検査：
採材 舌を中心線で切り離し，右半分を用いて，最後位有郭乳頭の中心部から舌尖方向へ 5mm 幅を 3 ヲ所，舌根方向へ 5mm 幅を 7 ヲ所用いた。
切片の作成 20%中性緩衝ホルマリン液固定後 パラフィン包埋し HE 染色した。
判定 50%以上繊維性被膜に被われたリンパ集簇巣を舌扁桃と判定した。

成績

- 1) 肉眼所見：最後位有郭乳頭から舌根の表面には凹凸があり，扁桃窩様の陥凹した小孔が観察された。この小孔は舌縁側に多くみられ，舌根に向かうと共に中央部にもみられた。乳用肥育牛では乳用廃用牛に比べて小孔の数が多く密に存在していた。
- 2) 計測：計測部位の長径，最大幅，最大高，重量の平均は乳用肥育牛では 30.5cm，9.7cm，7.4cm，1.54kg，乳用廃用牛では 33.8cm，9.2cm，8.1cm，1.6kg であった。
- 3) 病理組織所見：
 - ・ 舌扁桃組織は孤立リンパ小節，あるいは集合リンパ小節の形で認められた。
 - ・ 舌表面の小孔に一致してその直下に認められたが，小孔のない場所でも認められた。
 - ・ 舌粘膜上皮から固有層にかけて認められ，筋層に達しているものはなかった。
 - ・ 主に最後位有郭乳頭から舌根部で多く認められ，舌縁側で多く存在し，舌根に向かうと共に中央部でも認められた。また最後位有郭乳頭から舌尖に向かった場所で認められた個体もあった。
 - ・ 乳用肥育牛と乳用廃用牛の舌扁桃の分布を比較すると，乳用肥育牛では数も多く，密であったが乳用廃用牛は顕著に少なく，疎であった。また乳用肥育牛は 5 頭全てで舌扁桃が認められたが，乳用廃用牛では 2 頭で確認できなかった。

考察

舌扁桃を肉眼で確認することは困難であるが，舌体および舌根の全ての粘膜上皮を筋肉に達するまで削ぎとることで，舌扁桃を除去することが可能であると考えられた。